

ニューズレター 第 20 号

大阪学院大学外国語学部

外国語学部は実績主義

—夢を実現した先輩に続いて下さい—

2026 年 3 月 19 日発行

大阪学院大学外国語学部では...

豊かな人間性と幅広い教養を兼ね備えた語学のエキスパートとなりうる人材を育成します。本学部で学び、進むべき道を見つけ、夢に向かってこれから社会に羽ばたく先輩の皆さんを紹介します。

お客様に感動を届ける仕事に

中松 凜乙さん（2026 年 3 月外国語学部英語学科卒業。2 年次に夏期海外研修（カナダ）に参加。2026 年 4 月 リーベルホテル大阪に入社予定。）

■ 就職先について

ホテル業界には、ビジネスホテルからリゾートホテルまで多種多様な形態がありますが、私はその中でも「お客様との対話」を大切に、ホテルの魅力を直接伝えられるような接客ができる場所に身を置きたいと考えていました。

数あるホテルの中で、最も心を惹かれたのが「リーベルホテル」です。会社説明会に参加した際、リーベルホテルが私の地元である「鳥取県」とのコラボレーション企画を展開していることを知りました。食のフェアや観光地の紹介ブースが彩られている光景を目にした瞬間、大阪にいなながら故郷に包まれたような親近感を覚え、「ここなら自分

のルーツと知識を活かして、自信を持ってお客様をお迎えすることができる」と確信しました。

また、大学時代に培った留学生との交流経験や、日本語教育の資格も私の強みです。海外からのお客様にはもちろん、外国人スタッフとも円滑にコミュニケーションを取り、チーム全体で最高のサービスを作り上げていきたいと考えています。

■ 大学生活について

大学 1 年次は Club KC* に所属し、Buddy Program* を通じて留学生のサポートに注力しました。週末には buddy と共に観光地を巡り、日本の文化を伝える一方で、私自身も海外の文化や価値観の違いを肌で学ぶことができ、視野が大きく広がりました。



韓国人の友人と大阪市中央公会堂前で
(本人右端)

その経験を経て、2 年次の夏休みにはカナダ・バンクーバーでの語学研修に挑戦しました。今度は自分が「留学生」という立場になり、右も左も分からない異国の地で、現地の学生に助けられる安心感を身をもって体験しました。「困った時に手を差し伸べてくれる存在」がいかに心強いかわかったことは、留学後の経験にも大きな影響を与えています。



カナダ、バンクーバーで
(本人右から 2 人目)

カナダでは、分からないことをそのままにせず、自分から積極的に行動し発言する力が身に付きました。この留学経験は、語学力の向上だけでなく、人として一回り大きく成長させてくれたかけがえのない財産です。

学外では、社会経験を積むために 1 年次から飲食店のアルバイトを始めました。初めての接客業だったため、当初は緊張からミスをしてしまうこともありましたが、決して諦めず「どうすればお客様に喜んでいただけるか」を常に考え続けました。

単にお客様のご案内や料理を運ぶだけでなく、お客様が快適に過ごせる「食事環境」そのものを提供するという意識で日々の業務に取り組んだ結果、ホールのリーダーを任されるまでになりました。そして、その努力が認められ、社内称号である「接客マスター」をいただくことができました。

この経験を通じて得たやりがいは、私がホテル業界という「接客のプロフェッショナル」の道を選ぶ決定打となりました。就職後はさらにレベルアップした技術とおもてなしの心で、お客様に感動を届けていきたいと思っています。

■ メッセージ

大学生活の 4 年間は、高校よりも長い期間ですが、振り返ってみると本当にあっという間でした。

大学生になると、誰かに指示されるのではなく、すべてを自分の意志で決定し行動しなければなりません。だからこそ、学業、アルバイト、クラブ活動など、一つ一つの選択に責任を持って取り組むことが大切だと痛感しています。自ら考え、行動し、壁を乗り越えてきた経験は、他のどのような場面にも応用できますし、就職活動においても「自分はこれだけやってきた」という揺るぎない自信になります。これから入学する皆さんや後輩たちにも、ぜひ自分の可能性を信じて、悔いのない挑戦をしてほしいと思います。



神谷ゼミでは大阪・関西万博をフィールドワークした
(本人左から 2 人目)

(ナカマツ リオ)

Club KC*: 国際交流に関するイベントやセミナー等の企画・運営を主な活動とする本学公式サークル。

Buddy Program*: 海外から大阪学院大学に交換留学に来ている学生たちの日本での生活を、日本人学生がサポートするプログラム。

LEI、宅建、そして 地域経済を支える仕事に

野村 海沙希さん（2026 年 3 月外国語学部英語学科卒業。3 年次に宅地建物取引士の国家試験に合格。2026 年 4 月 北おおさか信用金庫入庫予定。）

■ LEI*（現 GS プログラム*）

私の大学生活の一番の思い出は、LEI* での経験です。入学前から大学では英語を学びたいと考えていましたが、入学するまでは LEI というプログラムの存在自体を知りませんでした。入学説明会で LEI について知り、友達と「ちょっとやってみよう」という軽い気持ちで参加したのがきっかけです。

LEI の授業はすべて英語で行われるため、授業を受けていく中で最初は分からないことばかりでした。正直、ついていけるか不安に感じていました。しかし、授業を受け続けるうちに、少しずつ英語が聞き取れるようになり、内容も理解できるようになっていきました。LEI の授業は、先生が話しているのを聞いてノートを取るというよりは、ペアやグループで話し合う時間が多く、アクティビティも取り入れられているため、自然と英語を使う環境に慣れていったのだと思います。



（本人左端）

新しい友達もすぐにでき、大学生活に対する不安も少しずつなくなっていました。また、先生方は、日常会話や勉強のこ



Russell 先生と

と、進路の相談など、授業中だけでなく、授業以外でも、いつでも親身に話を聞いてくださりとても心強い存在でした。

■ LEI のイベントに参加

LEI では授業だけでなく、さまざまなイベントが用意されており、私も多くのイベントに参加しました。

授業が始まってしばらくすると、ウェルカムパーティーがあり、LEI の先輩たちが新しく参加した学生を温かく迎えてくれました。このイベントを通して、先輩や同級生と話すきっかけができ、緊張していた気持ちも少しずつほぐれていきました。また、そのときに不安に思っていることや LEI で何ができるのかなど先輩たちに質問することができました。

そして、LEI で毎年模擬店を出店している 10 月の大学祭（岸辺祭）では、1 年次の方は先輩たちのやっていることを手伝うだけでしたが、それでも岸辺祭の模擬店がどんなものかを知ることができました。2 年次以降は自分たちが主体となり、ラムネの販売やゲームの運営をしました。友達や先生と協力しながらとても楽しい時間を過ごしました。



岸辺祭（本人前列左端）

ほかにもクリスマスパーティーやスポーツフェスティバル、BBQ などが開催され、同学年だけでなく他学年の人とも交流することができました。



スポーツフェスティバル
(本人前列右から 2 人目)

■ 新しいことへの挑戦：宅建合格

2 年次の時に国家資格である宅地建物取引士（以下、宅建）の資格取得をめざして勉強を始めました。学内のエクステンションセンター* で資格講座を無料で受けることができる環境が整っていたことから、2 年次の時に宅建の講座の受講を申し込みました。最初は、「就職活動に少しでも役立てばいいな」という軽い気持ちでその制度を利用し勉強し始めました。しかし、宅建の勉強は、不動産の管理や取引に関わる法律等、私にとって初めて学ぶ分野だったため、決して簡単なものではありませんでした。2 年次では、講座に参加していたものの、次第に勉強に身が入らなくなり、結果として宅建の国家試験に合格することができませんでした。

でも、その経験で終わらせるのではなく、「もう一度挑戦したい」と思い、3 年次でもう一度宅建に挑戦することを決めました。夏休みを利用し、毎日学校に通って 8 時間以上勉強する日々を送りました。その結果、無事試験に合格することができました。この経験から、全く未知の分野であっても諦めずに取り組めば、努力は必ず報われ

るということを学びました。この挑戦は、就職活動においても自分の強みとなり、同時に私自身のスキルアップにもつながったと感じています。今では、資格を取ることがとても好きになり新しい挑戦をたくさんしています。

■ 就職先について

私が就職する北おおさか信用金庫は、地域に根ざした金融機関として、個人や中小企業を中心に金融サービスを提供している信用金庫です。地域の人々の生活や企業活動を支える役割を担っています。このように、金融を通じて地域社会に貢献している点が特徴です。

同金庫に興味を持ったきっかけは、大学で行われた就職説明会です。説明会では、信用金庫の業務内容や役割について具体的な説明を受け、私自身に合っていると感じました。また、説明会を通じて、職員の方々が地域やお客様一人一人に真摯に向き合っている姿勢が印象に残り、一緒に働きたいと強く思いました。さらに、地域のお客様や企業様に融資を行う際の担保となる土地や建物の審査・評価に、私の宅建の資格を活かすことができるかも知れないと思いました。そのため、この説明会をきっかけに、北おおさか信用金庫で働くことを具体的に考えるようになりました。

LEI で培ったコミュニケーション力や協調性、そして宅建の資格取得に向けて継続して努力した経験を最大限に活かして、一人一人のお客様と向き合いながら地域に貢献できる北おおさか信用金庫で働いていきたいと考えています。



(本人右から 2 人目)

■ 後輩の皆さんへのメッセージ

何事もまずはやってみようという姿勢を大切にしてほしいと思います。挑戦し、努力を続けることで、自分自身の成長につながります。また、資格取得は知識を深めるだけでなく、就職活動においても役立ちます。大学生活は時間の使い方で大きく変わるため、ぜひ人との関わりや時間を大切にしながら充実した学生生活を送ってほしいです。

(ノムラ ミサキ)

LEI* (現 GS プログラム*) :

語学教育研究所 (Language Education Institute: LEI) によるコミュニケーション重視の国際人育成プログラム。2025 年度より、グローバルスタディーズ研究所 (Institute of Global Studies: IGS) にその運営が移管され、より発展的な GS プログラムとしてスタートしている。

エクステンションセンター* :

資格取得やスキルアップをサポートする講座。資格試験に精通した専門学校講師を招聘し、宅地建物取引士や旅行業務取扱管理者などの国家資格をはじめ、公務員・航空業界などの各種就職対策等さまざまな講座を開講。(入試形態によって受講料の優遇制度が異なる。)

大学職員として 学生たちを支える

萩野谷 勇弥さん (2026 年 3 月外国語学部英語学科卒業。4 年次に夏期海外研修 (韓国) に参加。2026 年 4 月より 大阪学院大学に事務職として勤務予定。)

■ 「教育」に関する思い

私は大学入学当初、英語科の教諭になることを目標としていました。しかし、授業を履修し学びを深めていく中で、自分は教壇に立つ立場として

本当に適しているのかを考えるようになりました。その結果、教員になる道は選ばず、別の進路を模索することにしました。とはいえ、教育に関わる仕事に就きたいという思いは変わりませんでした。そこで、教員以外に教育機関で働く方法について改めて考えるようになりました。大学生活を振り返った時に、ともに学んできた友人の存在はもちろんですが、LEI* や教職課程に関して大学の事務職員の方々に支えていただいた経験が強く印象に残っています。その経験から、今度は自分が学生を支える立場として関わりたいと考えるようになりました。私自身が「大阪学院大学に来てよかった」と感じられたように、より多くの学生がそう思える環境づくりに携わりたいと考えています。そして、学生一人ひとりがさまざまな経験に挑戦できるよう、学びを支援する存在になりたいと思います。

■ LEI* (現 GS プログラム*)

私は少人数クラスの LEI で英語力を高めたいという強い希望から、大阪学院大学への入学を決意しました。LEI に入るためには試験に合格する必要があり、無事合格した時には嬉しさのあまりすぐに母親へ連絡したことを覚えています。しかし、LEI での学びは想像以上に厳しいものでした。LEI では授業内の会話がすべて英語で行われるため、自然と英語力が伸びるだろうと考えていましたが、最初の授業から大きな壁に直面しました。先生が何について話しているのか全く理解できず、入学してしばらくは英語が聞き取れないまま授業を受け続ける日々が続きました。それでも授業を重ねるうちに、先生の英語を完全に理解できなくても、聞き取れた単語をつなぎ合わせて「おそらくこういう意味だろう」と文全体を推測する力が身についていきました。少しずつ「分からない」から「何となく分かる」へと変わってい

く実感が、自信にもつながりました。この推測力は TOEIC のリスニングとリーディングでも活かすことができたと感じています。また、LEI で得られたのは英語力だけではなく。新入生歓迎会や岸辺祭での模擬店出店、クリスマスパーティーなどの行事を通して、先生方、そして仲間と楽しい時間を過ごすことができました。



岸辺祭
(本人前列右側)

私の大学生活を振り返ると、楽しかったことも苦しかったことも、その多くは LEI での経験とともにあります。LEI で過ごした時間が、今の私をつくってくれたのだと感じています。

■ 教職課程

2 年次になると履修できる教職課程の科目が増え、ほぼ毎日 4 講時まで授業で埋まる生活が始まりました。その頃から、LEI の授業と教職課程の授業を本当に両立できるのかという不安を感じるようになりました。特に学期末には教職課程の課題や試験、LEI のプレゼンテーション、さらに他の科目の試験も重なり、このまま卒業まで教職課程を続けられるのか悩みました。英語力の向上を優先したいと考えた私は、途中で教職課程を諦め、英語学習に専念することも視野に入れました。そんな中で私の大

きな支えとなったのが同じく LEI で教職課程を履修する友人たちの存在です。その友人たちとは LEI の授業も含め、履修している科目がほぼ一緒だったので、ともに助け合いながら受講することができました。友達がいなければ、私は教職課程を途中でやめていたと思います。友人たちの存在があったからこそ、最後までやり抜くことができました！

■ TOEIC

入学してすぐに受験した TOEIC は 355 点でした。一方、英語教員になるためには文部科学省が示す 730 点以上が必要でした。また、周囲の LEI 受講生との実力差を縮めたいという思いもあり、2 年次の夏休みから本格的に TOEIC の勉強を始めました。しかし努力して勉強に打ち込んだにもかかわらず、勉強を始めてから受験した TOEIC のスコアは 540 点で、前回のスコアの 520 点からわずか 20 点しか伸びず悔しさを感じました。そこで私は学外でも TOEIC を受験するなど、より一層学習に力を入れました。その結果、4 年次最後の TOEIC では 785 点を取得することができ、入学当初から 430 点のスコアアップに成功しました。この経験を通して、すぐに結果が出なくても努力を継続することの大切さと、自分の成長を信じて挑戦し続ける力を身につけることができたと感じています！

■ 韓国との出会い

私は 1 年次の時に第 2 外国語として「韓国語入門」を履修しました。当時は卒業単位に必要だったことに加え、韓国語は日本語と文法が似ていて日本人にとって習得しやすい言語だと聞き履修ただけで、韓国そのものには興味はあまりありませんでした。しかし 3 年次の途中から韓国の You

Tuber の動画を見るようになったことがきっかけで、私は「韓国語を話せるようになって韓国の人と交流したい!」と思うようになりました。そこから私は Buddy Program* に参加し、韓国人留学生のサポートを行うようになりました。さらに 4 年次の夏休みには海外研修で約 3 週間、韓国へ行きました。研修では午前中は現地の大学で韓国語の授業を受け、午後からは文化体験や観光などのアクティビティに参加しました。研修中で一番嬉しかったのは、大阪学院大学で出会った韓国人の友達と韓国で再会できたことです。研修では本当に楽しい時間を過ごし、語学を学ぶことの楽しさや、人とつながる喜びを実感する貴重な経験となりました。英語に加え、韓国語の学習にもこれからより一層励んでいきたいと思っています!



韓国からの留学生と
(本人中列左から 2 人目)

この 4 年間、私は LEI と教職課程の両立という忙しい環境の中でも、目標を見失わず努力を続けてきました。そして英語だけでなく韓国語にも挑戦し、語学を通して自分の世界を広げることができました。これらの経験を通して、私が強く実感したのは「自分から行動すること」の大切さです。高校までは、先生に言われたことをこなすことが私の努力の形でした。しかし大阪学院大学に

入学してからは、「自分はどうなりたいのか」「何を達成したいのか」を考え、自ら行動することを意識するようになりました。LEI や教職課程への挑戦も、TOEIC の学習も、韓国語への興味も、すべて自分の意思で一步を踏み出した結果です。その主体的な姿勢があったからこそ、これまでの成果につながったのだと思います。

■ メッセージ

在校生の皆さんには、残りの大学生活で「自分は何を達成したいのか」という目標をぜひ明確にしてほしいと思います。目標があることで、日々の努力に意味が生まれ、そして迷ったときの指針にもなります。これから大学生活を始める皆さんには、4 年間でどのような自分になりたいのかを思い描きながら、一日一日を大切に過ごしてほしいです。大学生活は、自分次第でいくらでも可能性を広げられる時間です。

皆さんの大学生活が、挑戦と成長に満ちた実りあるものになることを心から応援しています!



(本人後列左端)

(ハギノヤ ユウヤ)

LEI*英語プログラム：
p.5 左側コラムの注を参照。

Buddy Program*：
p.2 右側コラムの注を参照。

編集後記

『ニューズレター』第 20 号をお届けします。卒業していく 4 年次生や、卒業後社会で活躍している卒業生に、大学在学中を振り返って後輩たちへのメッセージを書いてもらうというこの試みは、20 余年前、島津展子先生のゼミから始まり、島津先生ご退職後、栗野修司先生によって現在のようなパンフレット形式に整えられました。当時学部ウェブサイトを用意していた Rex Tanimoto 先生によってウェブ上でも閲覧できる仕様にしようとした計画でしたが、Rex 先生急逝をうけて急遽サイト運営を引き継いだ私がサイト掲載を任されることになりました。その後、栗野先生が他大学に移られ、私が第 4 号から現在まで『ニューズレター』の編集と学部サイト運営の両方を担当してきました。

発刊から 20 年、いろいろなことがありました。『ニューズレター』は特に 4 年次生や卒業生が留学のことや就職活動のことを話題にすることが多いことから、その時の社会経済情勢が鮮明に映し出されます。たとえば、(バブル崩壊から 2000 年代前半まで続いた)就職氷河期、リーマンショック(2008 年)、円高(2011 年 10 月 1 ドル=75 円 32 銭)による国内産業の空洞化とそれに伴うデフレ不況、コロナ禍(2020 年)による留学の断念と採用の縮小などが、学生生活および進路選択に深刻な影響を与えました。そして、近年は円安(2026 年 3 月 12 日現在 1 ドル=158 円 93 銭)が就職売り手市場を創出する一方で、資金的に留学を極めて困難にしています。しかしながら、いずれの時代の学生たちもその時の社会経済情勢に揉まれながらも呑みこまれることなく、力強く自分の道を切り拓いてきたことを、私は見てきました。今後も応援し続けたいと思っています。

Y. K.

Newsletter No.20

お客様に感動を届ける仕事に

中松 凜乙 1

LEI、宅建、そして

地域経済を支える仕事に

野村 海沙希 3

大学職員として

学生たちを支える

萩野谷 勇弥 5

ニューズレター 第 20 号

発行日	2026 年 3 月 19 日
発行者	大阪学院大学外国語学部
発行者住所	〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目 36-1
電話	06 (6381) 8434
学部 URL	http://www.osaka-gu.ac.jp/dhp/gaikokugo_gakubu/

